

1.「盛岡市中心市街地デザイン戦略」とは

(1)なぜ今「中心市街地デザイン戦略」が
求められるのか

「盛岡市中心市街地デザイン戦略」とは

「盛岡市中心市街地デザイン戦略」とは、盛岡のまちづくりを担っているみなさん、盛岡の行政や企業ではたらくみなさん、さらには多くの市民のみなさんと、盛岡の中心市街地の将来の姿を話し合っ、目に見えるビジョンとして描き（デザイン）、それを実現していくための方法（戦略）とともに示すものです。

盛岡の中心市街地は、盛岡市の行政・経済・商業の中心地である一方、岩手山をはじめとする山々に囲まれ、北上川、中津川などまちなかの水辺の風景に恵まれ、城下町から続く歴史的な街並みや文化豊かな多様なエリアが広がる、日本を代表する魅力的なまちです。

このまちは、これまで盛岡のまちづくりに「色々なかたち」で携わってきた多くの先人たちによってつくられてきました。そう考えると、まちづくりというのは、つねに未来に向けたバトンだということに気づかされます。では、今を生きる私たちは、未来にどんな盛岡を残していけるでしょうか？

市と市民と一緒に盛岡の未来へのバトンとしてのまちづくりを語り、描き、実現していくために「中心市街地デザイン戦略」を策定しました。



中心市街地が抱える課題

いま全国の地方都市では、人口減少、高齢化、義務的経費の増大、担い手不足といった多くの問題を抱え、先人たちがつないできたまちづくりというバトンを未来へとつなぐのが難しくなっています。

盛岡の中心市街地も行政・経済・商業の中心地として、エリアごとに特徴をもったまちが成立してきた一方、現在下記のような具体的な課題への対応が必要な状況にあります。

● 中心市街地の商業地としての役割の低下

中心市街地における小売店舗売場および年間小売販売額、それらの市全体におけるシェアが減少傾向にあります。

● 更新時期を迎えた都市インフラの再整備

戦後～高度経済成長期を支えた都市インフラが順次、更新時期をむかえます。官公庁街である内丸地区でも市庁舎等公共施設の再整備の必要性が指摘されています。

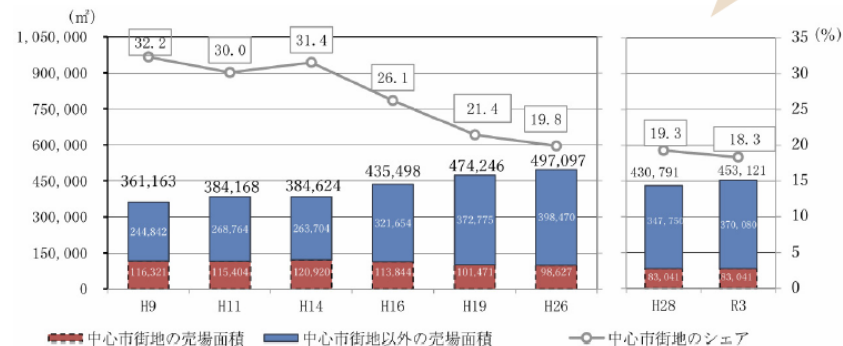
● 長期的な視点を持たない土地利用変更や開発行為

都市機能の変化や更新の中で、エリアのまちづくりとの連携や長期的な視点が不在の土地利用変更や開発行為が散見され始めています。

● 小売店舗売場

市全体では大幅に増加したのに対し、中心市街地では減少傾向にあります。

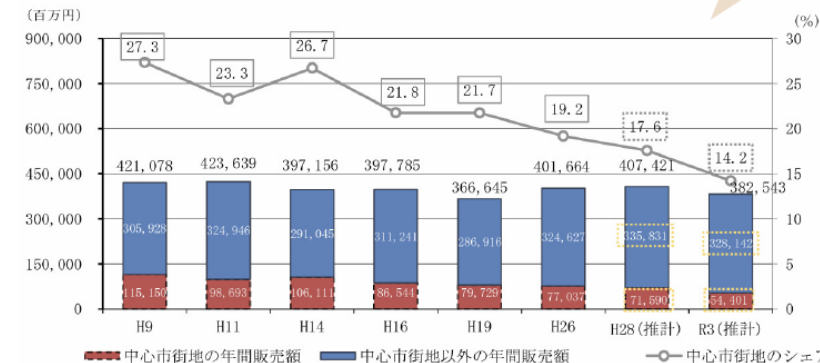
中心市街地のシェアは減少傾向…



● 年間小売販売額

市全体、中心市街地ともに、年間小売販売額は減少傾向にあります。

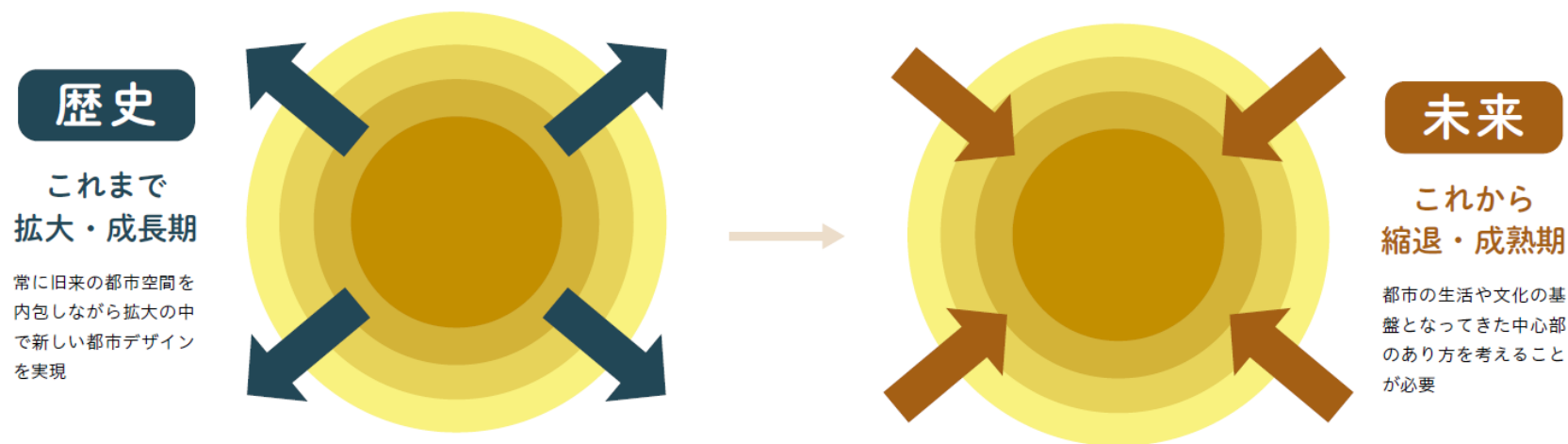
中心市街地のシェアは減少傾向…



資料：経済産業省「商業統計調査報告書」/総務省・経済産業省「経済センサス・活動調査」/盛岡市商工労働部経済企画課

縮退・成熟期における地域のアイデンティティの継承と 中心市街地の関係

これまでの都市の拡大・成長期には、旧来の都市空間を内包しながら、拡大の中で新しい都市デザインを実現してきました。人口減少が進むこれからの都市の縮退・成熟期には、都市の生活や文化の基盤になってきた中心部のあり方を改めて考え、地域のアイデンティティとは何かを意識的に議論するまちづくりがより重要になります。中心市街地が抱える諸課題に対応しつつ、**盛岡のアイデンティティの核となってきた中心市街地について、都市の生活や文化のあり方を含めて考える**ことは、先人たちの思いをつなぎ、盛岡の魅力を次の世代へ継承していくために大切なことです。



盛岡の未来を語り、描き、実現していくまちづくり

先述の問題意識を踏まえて、今の盛岡の魅力や人々の活動をどうつなぎ合わせて、よりよい未来を実現していくか、議論しながら知恵を出していく「中心市街地デザイン戦略」の取組をはじめました。

ぜひ多くのみなさんに、盛岡の未来を語り、描き、実現していく、「中心市街地デザイン戦略」のまちづくりに参加していただければ幸いです。



(2) 「中心市街地デザイン戦略」が目指すもの

「盛岡市中心市街地デザイン戦略」が目指す 中心市街地のすがた



わたし

市民や盛岡に関わる人がまちづくりについて対話し、自ら行動につなげる

いろどる

エリアごとに多種多様な個性があり、独自の取組がおこなわれている

つなげる

個別ではなく互いに共有・連携することで取組を効果的にしていく

みがく

歴史・自然とともに受け継がれてきた「盛岡らしさ」をさらによいものに

ひらく

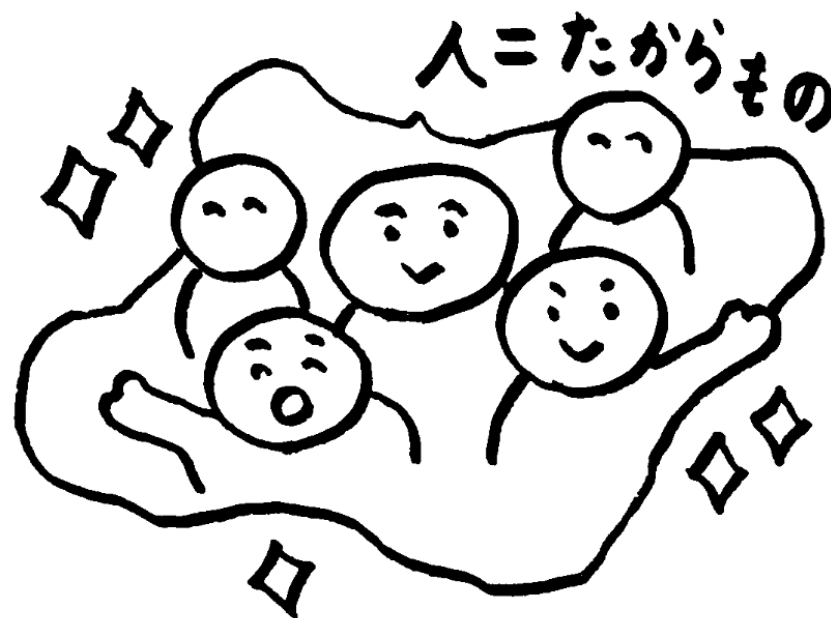
新しいモノ・コト・人とともに「新たな盛岡の魅力」をつくりだす

【わたし】盛岡の未来を担うのは一人一人の「私」たち

盛岡は、まちづくりのために自ら行動をおこせる人がとても多く住んでいるまちです。これは盛岡の一番の宝です。

まちの未来を考えるのは市役所だけの仕事ではありません。まちづくりが難しい時代だからこそ、盛岡の未来を考え実現していくのは、盛岡に住み、盛岡が大好きな、**盛岡に関わる一人一人の「私」たち**です。

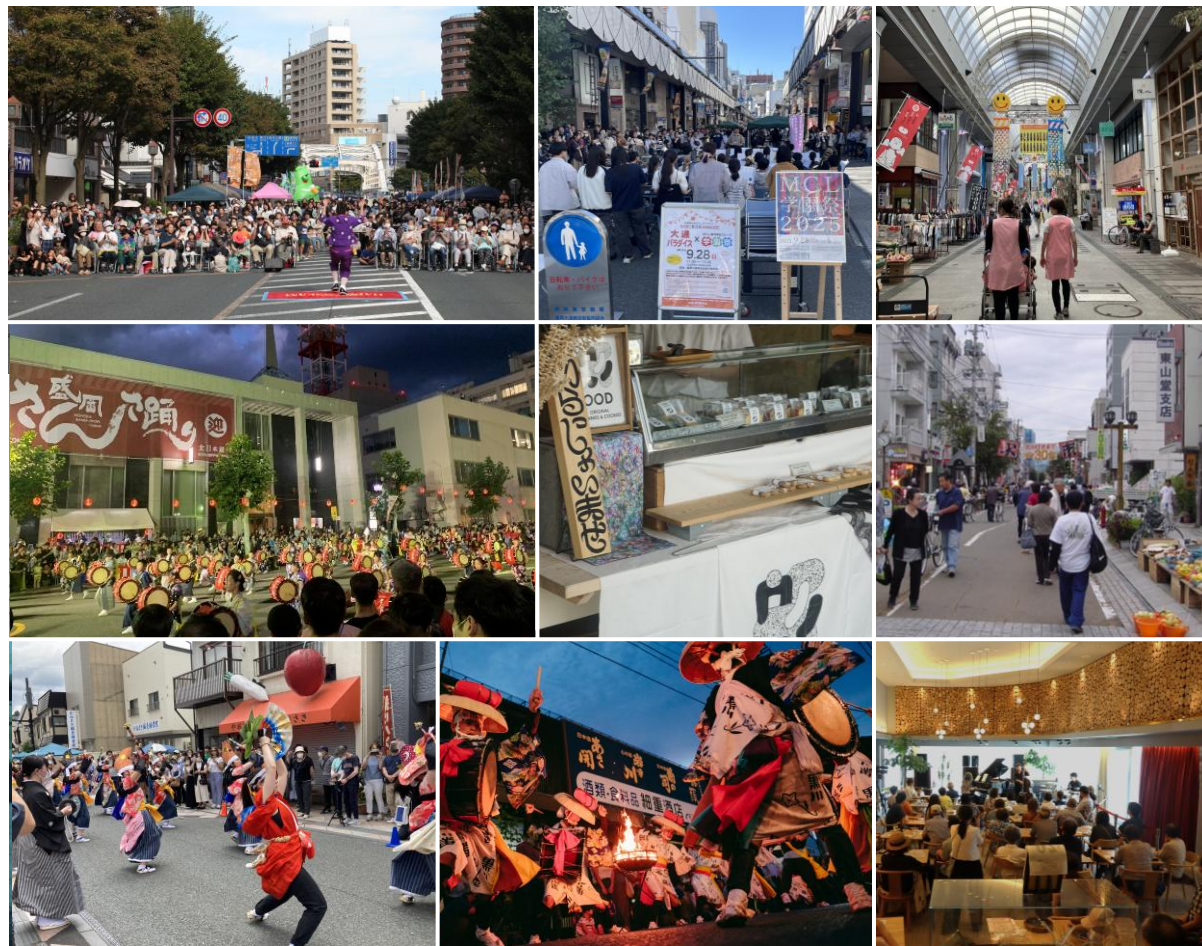
まちづくりというバトンを、世代を超えてつないでいくには、今を生きる私たちがまず未来の盛岡を想像してワクワクし、楽しく参加したくなる計画にすることが大切です。今の盛岡の魅力や人々の活動をどうつなぎ合わせて、描いた未来を実現していくか、参加するみなさんが楽しみながら知恵を出していくような、そんなまちづくりを進めていければと考えています。



【いろどる】多様な担い手に支えられた個性あるエリアの発展

盛岡の中心市街地では、多種多様なエリアが形成されていて、それぞれで商店街組織や企業、NPO法人、個人など多様な主体がその地域を盛り上げ、より良い場所にするための運動やイベントをおこなっています。

デザイン戦略では、この**多様な担い手に支えられた個性あるエリア**の取組がさらに発展すること、それらが互いに連携し、影響し合いながら成長していくことを目指します。それにより各取組が相乗効果を生み、盛岡のまちづくりがより良いものとなると考えています。



【つなげる】盛岡の未来を実現するための共有と連携

各エリアの取組が互いに連携し成長していくためには、各取組の先にある**まちの未来の姿を目に見えるかたちで共有することが大切です**。共有されてないと、実現の方法を考えたり、連携・協力したりして、未来を実現していくことができません。

「デザイン戦略」の「デザイン」には、「**皆さんと考えたり、計画したりする、まちの未来の姿を、目に見えるかたちで表していく**」という意味が込められています。

そして、**描いた未来を実現する方法を考え、協力し合って実現する**まちづくりを進めていきたいという思いから「**戦略**」という言葉をつかっています。

「中心市街地デザイン戦略」は、盛岡の少し先の未来を目に見えるかたちで共有することで、より多くの人たちが興味を持ち、共感し、参加し、ともに作りあげていく計画となることを目指しています。



【みがく】時代を超えて受け継がれてきた盛岡らしさ

盛岡の中心市街地は、周囲の自然地形を取り込んで計画された近世城下町をもとに、様々な時代の都市デザインがパッチワークのように縫い合わされ形成されました。

- 山と川に触れられる風景の豊かさ
- 細やかな通りに商いがある街の奥行き
- 文化を大事にする人の繋がり

これらは、その中で醸成され、先人たちが築いてきた現代の盛岡の魅力、大切な「盛岡らしさ」です。世界のまちづくりで自然と都市との関係やローカルな文化の価値が見直されている今、これらの大事な地域資源をみがくことが大切です。

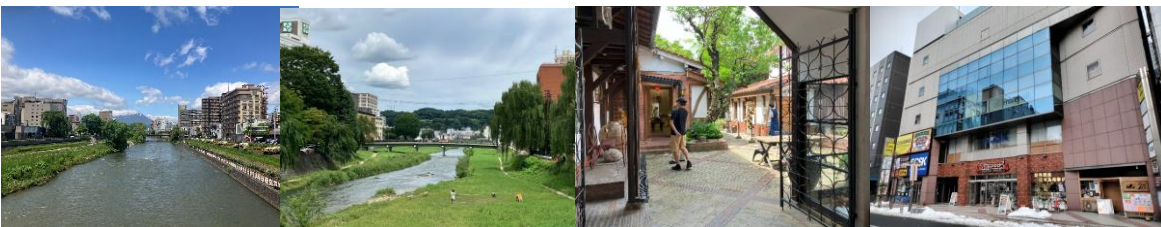


自然地形を取り込んでデザインされた城下町

「南部領盛岡平城絵図」国立公文書館蔵
出典：国立国会図書館デジタルアーカイブより



複数の時代の都市デザインがパッチワークのように縫い合わされてきた現代の盛岡中心市街地



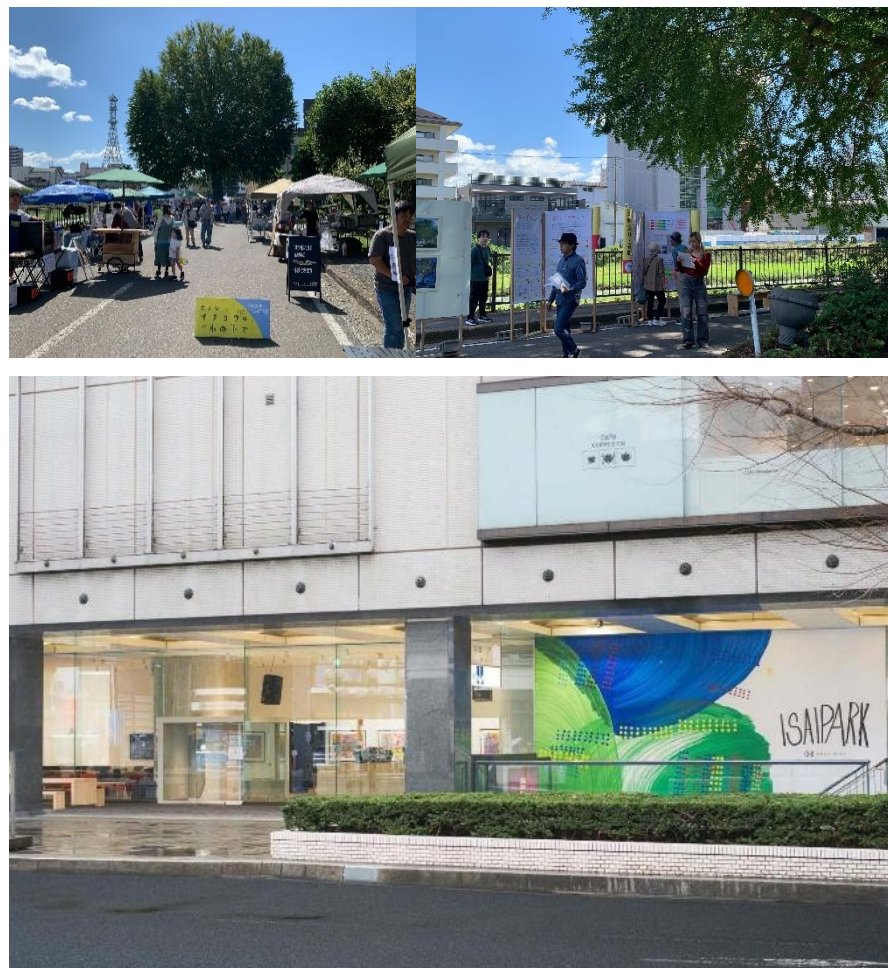
山と川に触れられる風景や、盛岡の文化が感じられる通り沿いの商いの例

【ひらく】新たな盛岡の魅力をつくるまちづくり

「盛岡らしさ」は、時代を超えて受け継がれてきたものだけではなく、**今の時代に生きるわたしたちが新しくつくりだし、未来に受け継いでいけるもの**でもあります。

例えば、各エリアの取組を支えてきた自然や歴史資源の状況や社会状況の変化により維持が難しくなった際にも、形を変えて取組を続けていくことができます。また、市民に馴染み深い施設とアートの今までにないコラボレーションにより新たな魅力を生み出すこともできます。

先人たちが築いてきた歴史・文化を大切にしながら、新たなモノ・コト・人を受け入れ、ひらかれたまちづくりをおこなうことで、形を変えても変わらない「盛岡らしさ」を継承することや、新たな「盛岡らしさ」を創出することができると考えます。

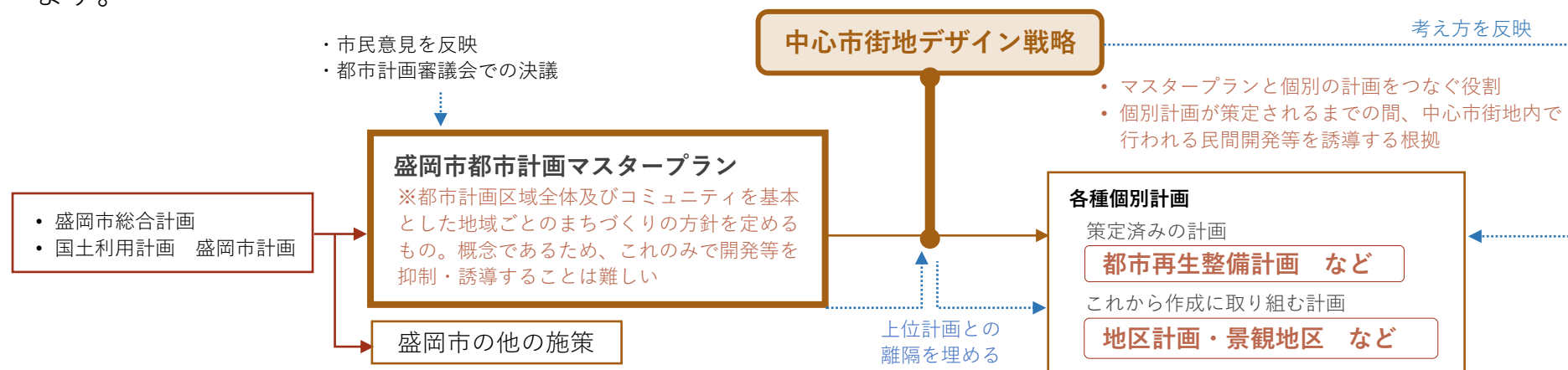


(3) 「中心市街地デザイン戦略」の役割

上位計画に基づいて策定される各種計画の位置付けを明確にし、 詳細計画に落とし込むための素地

盛岡市の行政運営における最上位計画「**総合計画**」の下、望ましい都市像やまちづくりの目標を明確にし、この目標の実現に向けて、都市計画の諸施策を総合的かつ体系的に展開していくため、市民参加のもとに策定する将来のまちづくりへ向けた基本方針を定めたものが「**都市計画マスタープラン**」です。盛岡市が実施する都市計画（土地利用、道路・公園・下水道等の都市施設整備、市街地開発事業等）は、すべてこのマスタープランに即して実施されることになります。

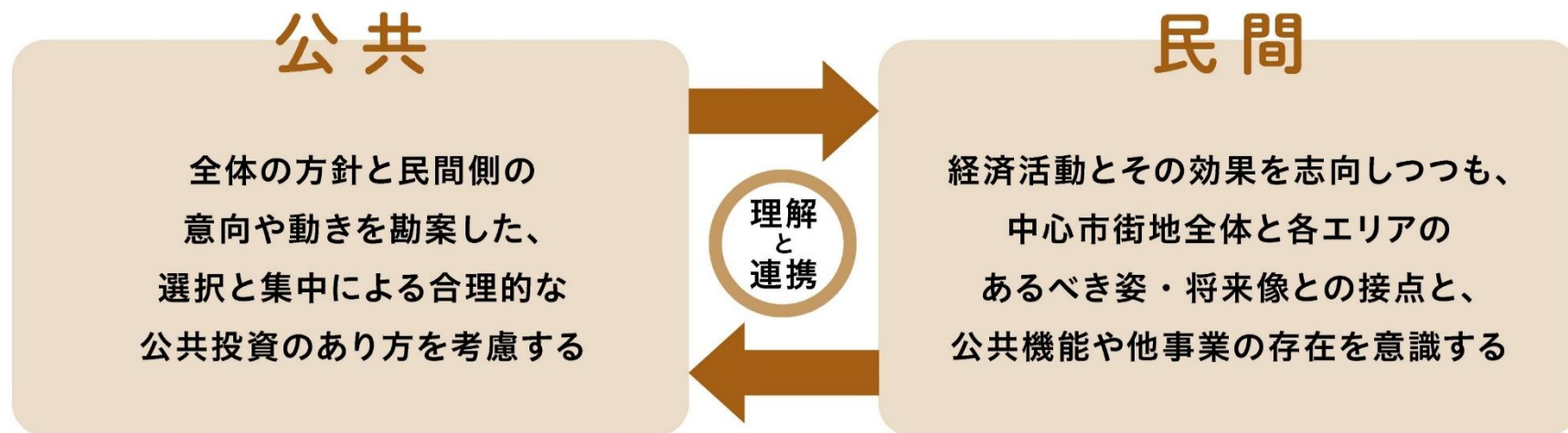
一方で、多くの場合、行政の計画が規制等の確認以外で紐解かれることは少なく、都市計画マスタープランに関しても同様です。そこで、中心市街地デザイン戦略は、中心市街地全体の将来ビジョンだけでなく、市民生活において身近な課題に基づく都市整備のイメージを共有するとともに、即応性が求められる問題への対応を取りまとめ、「**生きた計画**」として**活用されるもの**となることを目指しています。



エリアごとの官民連携の可能性にも言及し、 官民双方が創意工夫に満ちたまちづくりを推進するための指針

長期的な展望を持って都市を再編し、次代にふさわしいまちづくりを進めるためには、公共側は「全体の方針と民間側の意向や動きを勘案した、選択と集中による合理的な公共投資のあり方」を、民間側は「経済活動とその効果を志向しつつも、中心市街地全体と各エリアのあるべき姿・将来像との接点と、公共機能や他事業の存在」を十分に考慮することが求められます。

その上で、お互いの性質の違いを理解し、整合性のあるまちづくりを進めるための方策が必要となります。デザイン戦略は、行政と民間との連携によるまちづくりの将来像の実現に向けた、**官民双方が創意工夫に満ちたまちづくりを推進するための指針**となります。

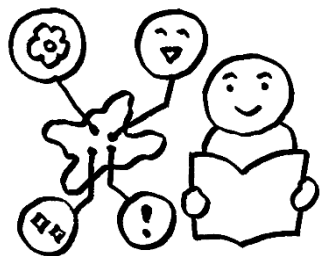


策定の過程から広く公開し、盛岡市の姿勢を周知・啓発する、まちづくりに関する官民の活発な意見交換の「題材」

デザイン戦略は、策定の過程から広く公開され、誰もがアクセスできる資料として、盛岡市民だけでなく、盛岡に関わる人々に「他のエリアとの違いを知った上で地域に則した取組を考えたい」「公共が担うことと民間がなすべきことの間隙や境界を理解したい」「開発に際して市の方針を把握したい」など、目的と手段に応じ、時にアイデア集成として、参考資料として、ベース図として、紐解かれることを想定しています。

盛岡市民

他のエリアではこんな取組があるんだ。自分の地域ではどんな取組をしようかな！



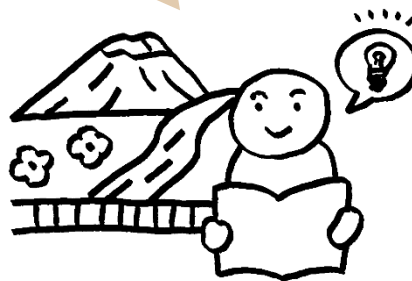
市役所職員

エリアの人の動きや課題感が特定されていたから、地域のニーズに合った計画を立てることができた！



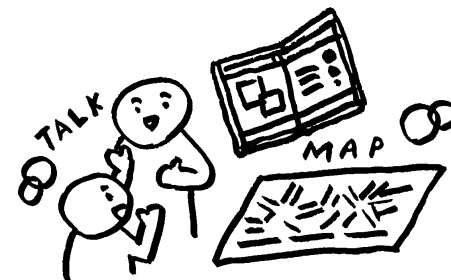
民間事業者

このエリアのこの風景は市民から愛されているらしい。では活かす形で計画を考えてみよう！



学生・起業家

自分の考えていることと同じことをアクションしているエリアに話を聞きにいこう！



(4) 「中心市街地デザイン戦略」の対象区域

「中心市街地デザイン戦略」で対象とするのは、盛岡市立地適正化計画に定める都市機能誘導区域を基にして、大きく分けて「盛岡駅周辺」「大通・菜園」「内丸」「河南」の4つの区域です。中心市街地の都市生活や商業・文化を支え、かつ現時点でまちづくりに関する取り組みが活発と考えられるエリアを対象としています。

エリアの中でも、まちの形質や民間の組織やその取組によってさらに細分化される状況にあることから、下記の16地区に細分化して、検討を進めます。

● 盛岡駅周辺

駅前通り、北上川、材木町

● 大通・菜園

開運橋、大通り、菜園通り、映画館通り

● 内丸

内丸・中央通り、
櫻山・大手先通り、中津川、
※本町通り・寺町

● 河南

紺屋町・葺手町、肴町、
八幡通り、※鉤屋町、
※下ノ橋町・清水町

※中心市街地に隣接し、文化や伝統を育むような民間の取組が活発であるエリアや、中心市街地との連携が考えられるエリアとして、本町通り・寺町、鉤屋町、下ノ橋町・清水町も対象としています。

